全国検数労連

８４６号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2
日港福会館５階
Tel 03(3733)5621　Fax 03(3733)5622
メール　rouren@kensu.jp
ホームページ　http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



11月9日(月) 15:00~15:30 第2回 検数労連26冬季一時金交渉

26冬季一時金スト権、冬季一時金要求・諸要求いずれも９７％以上の賛成票を獲得！団結のチカラで26冬季一時金要求実現へ！

【26冬季一時金スト権集結果】

地区名	項目	賛成	反対	白紙	棄権	合計
全　国	冬季一時金	994	13	11	3	1021
	諸要求	1000	4	14	3	1021

《スト権集約結果》

26冬季一時金スト権確立に向け、10月29日～11月6日正午を投票期間として中央集約を行った結果、左記の通り各項目で97％以上の賛成票を獲得することができました。

中央執行部ではこの結果を職場の期待の表れと認識し、要求通りの有額回答を目指し、たたかっていきます。

【第2回一時金交渉】

11月9日（月）第2回検数労連26冬季一時金交渉を行い組合は冒頭、両協会に対し全国集約した26冬季一時金スト権の投票結果を披歴し、次のような主張を行い回答指定日に向けて組合要求に沿った回答を構築するよう求めました。

《組合主張》

10月29日から11月6日を投票期間とした検数労連26冬季一時金スト権について、中央集約を行った結果、冬季一時金の項目と諸要求の項目のどちらも高率でスト権を確立することができた。

このことは、全国の現場で働く組合員の今冬季一時金に対する期待の表れであると言える。同時に、両協会ともに離職者に歯止めが掛かっていない状況の中で、組合としてはやはり賃金が低いことが原因のひとつではないかと考えている。

日々の生活給の補填である一時金を組合要求に沿った形で提示することによって、離職者に歯止めが掛かると考えることから、組合要求に沿った一時金の構築を求める。同時に週休消化の課題等の労働条件の改善も必要であることから、諸要求の改善に向け、各地域の声にも耳を傾けて改善に向けた対応を図ってほしい。

戦争反対・憲法改悪阻止
規制緩和反対・国民本位の交通運輸政策実現
交通運輸労働者の労働条件改善を求める
11・5中央行動を開催！

バスやタクシー、トラック等、交通運輸業界で働く労働者の仲間で組織された交運共闘の中央行動が11月5日（木）に中央省庁が集まる霞ケ関で開催されました。

この行動には、検数労連中執5名と日検労稲田中執も参加し、事前に全国の組合員から届いた請願署名（国交省614筆・厚労省608筆・経産省612筆）を国土交通省・厚生労働省・経済産業省へ渡し、交通運輸労働者の労働条件改善を求めました。

中央行動では各参加組織の決意表明が行われ、港湾を代表して神保副委員長が国土交通省前で決意表明を行いました。

神保副委員長は、港湾の現場は深刻な危機感の中にある。物価高騰が労働者の生活を直撃する一方、船社や荷主など港湾を利用する大資本は莫大な利益を独占し、港湾への「理不尽なしわ寄せ」が常態化していることを強調し、適正な料金がしっかりと支払われなければ、港湾で汗を流す仲間の賃金や労働環境の向上は一向に進まないと改善を訴えました。また、国が進める港湾政策についても自動化機械の導入など、デジタル化・効率化の名の下に進められる施策は、そこで働く港湾労働者「雇用や就労環境」に視点を置いた対応が決定的に欠落していると痛烈に批難し、検数労連は、大資本の利益のみを優先する労働政策や、現場を無視したデジタル化・自動化の押し付け攻撃には絶対に屈しない。現場の声を最大の武器として会社・行政に理詰めで対峙し、労働者優先の政策転換に向けて、さらに団結を強め日々奮闘していくとの決意が示されました。



次回交渉　11月18日（水）15：00～第3回　検数労連26冬季一時金交渉

両協会の取り扱い貨物動向、収支状況、一時金に対する考え方などの披歴を求めていきます。